

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600867		
法人名	有限会社 ライトマインド		
事業所名	グループホーム 花縁		
所在地	北海道苫小牧市澄川町4丁目3番5号 (電話) 0144-61-7321		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年7月4日	評価確定日	平成20年7月16日

【情報提供票より】 (平成20年6月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年10月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤1人, 常勤換算11.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1.2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000円	その他の経費(月額)	光熱水費(4~9月)16,500円 (10~3月)23,500円
敷金	有(43,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 無( )	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

### (4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	76歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	光洋クリニック 苫小牧澄川病院 杉村歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム花縁は、苫小牧西インターの近くに位置し、天気の良い日は樽前山を遠くに望むことができる自然豊かな住宅地にあり、木の香りが漂う落ち着いた建物である。施設長は長年老人病院の看護師で師長を勤め、医療法人の立ち上げたグループホームに管理者として勤務した。その経験を生かし、利用者の家という理念を基本に、一人ひとりの思いを汲み取り、家庭と同じような落ち着いた生活ができるような温かいケアを心がけたいという思いで花縁を開設した。職員も、利用者個人のペースでそれぞれの目線に立ち、利用者の思いに沿ったケアに日々取り組んでいる。利用者は、ゆったりと豊かな表情で生活している。開設3年目であるが、地域との交流も少しずつ深められている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での取り組みは、項目毎に改善計画シートを作成して計画的に取り組まれている。取り組みのひとつであった家族会も今年の2月に立ち上げ、家族の意見を積極的に取り入れようと努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、各職員に自己評価表を記入してもらい、施設長と副施設長が全職員の意見をまとめあげて作成している。個々の職員は、自己評価は日々のケアを見直す良い機会ととらえ、これからのケアの、具体的な目標と積極的に考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在4ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ビデオを用いて事業所の様子を報告したり、実績を説明して数多くの意見を取り入れようとしている。災害時の対応についても、町内会と連携する組織づくりを検討している。事業所の代表者は、市町村の担当者と電話をしたり、直接出向いたりして事業所の質の向上に向けた取り組みや、今後の課題について話し合いがもたれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「すずらん通信」を発行し、写真などを用いて利用者の暮らしぶりを伝え、個人の様子も手書きで記入して家族に郵送している。面会に来られない家族に対しては、変化があれば電話をしたり、来訪時に詳しく報告をしている。昨年の外部評価後に立ち上げた家族会や、運営推進会議では、率直な意見や苦情を積極的に取り入れようと努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入してお祭りに参加したり、文化祭を見学に行ったりしている。事業所の行事は、ホーム便りで町内会に知らせ、「流しそうめん」などの行事に招待して交流を深めている。町内のオカリナ演奏や語り部などのボランティアの人との交流や、施設長の知人によるフラダンスの見学などの交流も行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に花縁独自の基本理念を作りあげている。平成19年には、職員の代表者が全職員の意見を聞きケア理念を作成している。その中に「地域の一員として暮らす」という地域密着の理念を具体的に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、施設長が新人研修時に理念の言葉を具体的に説明し、職員が理解できるように指導している。理念は利用者と職員双方の目標とし、毎日のケアの方法や考え方の指針として全職員で理念の実践に取り組んでいる。	○	具体的な理念があることで目標になったり、職員の意識が高まったりしているため、今後も理念を目指してよりよい日々のケアに取り組んでいきたい意向なので、より一層のケアの向上に期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入してお祭りに参加したり、文化祭を見学に行ったりしている。事業所の行事は、ホーム便りで町内会に知らせ、流しそうめんなどの行事に招待して交流を深めている。町内のオカリナ演奏や語り部などのボランティアの人との交流も行っている。	○	今年は、町内会の文化祭にうちわや陶芸、絵などの作品を展示し、見学だけでなく参加を予定しているのでその取り組みに期待したい。また、小学校や幼稚園との交流をしていきたい意向なので取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での取り組みは、項目毎に改善計画シートを作成して計画的に取り組んでいる。取り組みのひとつの家族会も立ち上げ、家族の意見を積極的に取り入れようとしている。今回の自己評価は、各職員に記入してもらい、施設長と副施設長が意見をまとめあげて作成している。	○	職員が個別で行った自己評価で課題が出てきたり、評価の経験がないスタッフは、自己評価や外部評価の意義を十分理解していないため、施設長、指導者とともに、会議で検討したり指導していきたい意向なので、今後もその取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在4ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ビデオを用いて事業所の様子を報告したり、実績を説明して数多くの意見を取り入れようとしている。災害時の対応についても、町内会と緊急連絡体制づくりを検討している。	○	将来的に2ヶ月に1回の開催を目指し、今後は3ヶ月毎の開催をしていきたい意向なので取り組みに期待したい。次回の会議では、外部評価の報告と、町内会との災害時の緊急連絡体制を整える予定なので、その取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の代表者は、市町村の担当者に電話をしたり直接出向いたりして、事業所の質の向上に向けた取り組みや今後の課題についての話し合いがもたれている。市町村の担当者を行事に招待して、理解を深めて貰うように努力している。		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「すずらん通信」を発行し、写真などを用いて利用者の暮らしぶりを伝え、個人の様子も手書きで記入して家族に郵送している。金銭管理も毎月家族に報告している。面会に来られない家族に対しては、変化があれば電話をしたり来訪時に詳しく報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年の外部評価後に立ち上げた家族会や、運営推進会議では、率直な意見や苦情を積極的に取り入れようとしている。重要事項説明書に苦情受付機関を明記すると共に、玄関にアンケートを準備して、家族の意見を積極的に取り入れようとしている。	○	今年の8月には、職員が入らない家族会を開催し、家族の様々な意見交換の機会を設ける予定なので、その取り組みに期待したい。アンケートの書式を変更して、家族からの意見や苦情を取り入れやすくする意向なので、その取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで、利用者への影響を考慮して異動は行っていない。施設長は、離職を最小限に抑えるように半年に1回程度職員の個人面談を行い、悩みや人間関係の相談にのっている。離職する職員については、利用者の状況に応じて個別に説明し、新しい職員は紹介して関係がスムーズに築けるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、全職員が平等にレベルに合った研修が受講できるように、可能な限り計画をたてて取り組んでいる。受講後はレポートを提出し、伝達講習を行っている。内部研修は月1回行っている。定期的な個人面談において、職員が仕事の上で個々の目標を定め、達成できるように取り組んでいる		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会の親睦会に職員も参加している。職員は、自分のサービス向上や知識を深めるために、他の事業所と連絡を取り合うことがある。他のグループホームの職員が見学や相談に来て交流したり、介護実践研修の実習生の受け入れを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に施設長が訪問調査を行い、利用者や家族に会い、入居までに時間がある場合は、見学に来て貰うこともある。病院や他の施設からの入居が多く、徐々に利用できるような工夫が難しい時もある。新設予定の「ときわ館」入居予定者には、建物や雰囲気に慣れてもらえるように見学を受け入れている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生きるパートナーとしての存在であることを常に意識しながら、日々のケアを行っている。料理の作り方や花の名前、物の取り扱い方法などを利用者に教えて貰うことも多く、利用者と共に過ごし支え合う関係を築くように努めている。	○	利用者の持っている本来の力、得意分野の発揮などについてまだ不十分な場合があり、自分の立場や役割が意識できない利用者に対しての関わり方を今後も考えていきたい意向なので、その取り組みに期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で、些細な一言も聞き逃さないようにして、できる限り本人の希望や意向を把握するように努めている。本人の意向がわからない時も家族の意向を把握して、利用者本人の意向を推し量って検討するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するために「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用し課題の把握に努めている。家族にシートの記入を依頼したり面会時に話し合いをすることで、意見を反映している。担当者が介護計画の原案を作成し職員会議にて検討を行い家族に説明をし、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標を3ヶ月に設定している。月2回の職員会議と月1回のモニタリングを行うことで状況の変化を把握し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。また、入退院時や身体、精神症状に変化が生じた場合は、見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。		
<b>を</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用して医療処置を受けながら日常生活を過ごすことができるよう支援している。自主的なサービスとして、家族との外出や外泊、来訪時に食事を共にするなど柔軟な支援をしている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長、副施設長は地域の医療機関で看護師としての勤務経験があり、かかりつけ医や協力医との関係が築かれている。かかりつけ医を受診する場合は家族に依頼しているが緊急時には、施設長が適切な医療を受けることができるよう対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの方針を書面にまとめ入居時に家族に説明し、協力医療機関に配布することで関係者全体で方針を共有している。医師が終末期の判断をした場合、家族と意思確認書を取り交わすことになっている。平成20年7月までの期間に3名の利用者の看取りを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の介護を行う場合などは、誇りを傷つけないように配慮して言葉かけをしている。日誌などの記録は「徘徊」や「拒否」などの介護する側の視点での表現とならないよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や調理、食事の時間は決まっているが「何時までにこれを終わらせる」というような業務マニュアルはない。窓から外を眺めている時に露が目に入り「食べたい」という要望がある時には、一緒に露採りに出かけ調理して食べたりすることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者と相談しながら職員が1週間単位で交代で作成している。毎週月曜日に近隣のスーパーに利用者と買い物に出かけ食品を見て選んでいる。一人ひとりの力を発揮できるように、台所にテーブルと椅子を置き、座りながら食器を拭くなどの工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めず、いつでも入浴ができる体制を整えているが夜間入浴を希望する利用者はいない。入浴を拒む利用者には時間帯や職員を変えたり「明日、受診ですね」などの言葉かけをすることで入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「センター方式」のシートを活用することで生活歴の把握に努めている。古新聞を水に浸し丸めて撒いて利用者が箒で掃除をする、調理をする、食器を洗う、拭く、洗濯物を畳む、プランターや畑に種を蒔く、将棋をするなどの楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居前から散歩を日課としていた利用者には、毎日散歩ができるよう見守りをしている。暖かい季節には屋外での行事を多く取り入れたり、冬季はドライブに出かけるなどでその日の希望にそった外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は自由に外出できないことの弊害を認識している。自由な暮らしを支えるため一人ひとりの利用者の様子を観察し、出入りに鈴をつけることなどで外出の気配を把握し一緒に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生を予防するという考えに基づいて「自主点検表」を使って一日2回点検している。消防署と連携し設備点検、避難訓練は各々年2回実施している。運営推進会議において災害対策について話し合い、地域の協力が得られるよう働きかけている。	○	事業所だけの災害対策には限界があるため町内会と緊急連絡体制を整えたいとの意向なので、その取り組みが実現するよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「センター方式」のシートに利用者一人ひとりの食事量、水分量を記録している。食事から水分を摂ることができるよう汁物や野菜料理を多く取り入れるようにしている。嚥む力に応じて調理形態や献立を変更することで飲食物の低下を防いでいる。	○	保健センターの管理栄養士に定期的に栄養バランスのチェックを依頼したいという意向なので、その取り組みが実現するよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本理念が共有の空間に表現されている。洗面台を2台並べ職員と一緒に洗面や歯磨きをすることで利用者の力を引き出している。トイレには身体を支えるための建具を置き、座ることや立ち上がる動作を支えるなどの自立と安全への配慮をしている。大きな窓から自然光が入り、季節の花を飾るなどの季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前から使っていたベットやカーテン、家具、掃除道具、表札などを持ち込むことができるよう家族と話し合い、居心地のよい居室づくりに努めている。また、全ての居室にナースコールを設置し緊急時に対応できるようにしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。